

Title	序(小竹豊治教授退任記念号)
Sub Title	Preface(In Commemoration of the Retirement of Professor Toyoji Kotake)
Author	白石, 孝
Publisher	
Publication year	1976
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.19, No.4 (1976. 10) ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19761030-03959197

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

小竹豊治先生が慶応義塾大学を定年退職されたのは昭和47年3月である。先生が講師として塾に迎えられたのは昭和24年のことで、その担当の「取引所論」は、戦後の混迷期から漸く脱却しつつあったわが国の経済をになう人々に、新たな光を与えるものであったと思う。先生は経済学部から商学部が独立創設された際には、その専任講師として「証券市場論」を講じ、昭和35年に「証券市場構造の研究」で学位を受け、商学部の発足からその研究・教育の大きなかなめの1人となられたのである。と同時に、新しい科目として「企業金融論」を設置しこれを担当されたが、このような分野が先生の手によって切り開かれたことは、後継者達に多大な刺戟を与えたものといえよう。昭和39年に商学部教授に就任されてから、その内外における活動は眼をみはるものがある。お若い頃に研究されていたニューヨーク株式取引所や英国金融資料、とインドの経営代行制度の歴史的研究から、更に昭和30年代からの研究は、証券市場構造の国際比較類型に及び、その卓見は世に広く知られるところであった。先生は常に確固たる信念をもち、時評にも一つの識見をもっておられる。

本誌は特に先生の教授退任記念号を企画したが、ここには国際金融や企業金融を担当している安井・田村両教授のほかに、渡辺法大名誉教授や北原全銀協連合会常務理事の御執筆もいただき、かつ先生の指導を受けた玉置・赤川両助教授、斎藤寿彦千葉商大講師、慶応義塾大学院の鈴木俊夫君の研究を所載してある。先生自らの筆になる巻頭論文「証券経済論への道」は最終記念講演を記したものであるが、人々がひとしく耳をかたむける貴重な教訓を与えるに違いない。学問を志す者に、高い峰のきびしくも優麗な姿を教える伝承の世界こそ、われわれの求める師弟の関係であるとするれば、先生の御退任後も猶、先生は近くそして生き生きと人々の胸におられる立派な師であるといえる。この記念号はまさにこの一つの証左であろう。先生の御壮健を祈ってやまない。

昭和51年10月

商学部部長

白石 孝